



「人類史的危機」の時代における労働者協同組合法の制定・施行の意義を問い、次なる社会を構想する協同労働研究の新たな地平を切り拓く」ことを活動テーマに定めた2023年度は、多様な分野で活躍する団体・人々との交流を深める一年となりました。労協法施行から一年強、2023年12月11日時点で設立された労協法人は66団体、連合会は2団体となっています。

事業内容も人々も本当に「多種多様」で、暮らしの中から生まれる市民の想像力・創造力の豊かさに日々驚いています。多様性の時代は違いを認め合う時代ともいえます。その認め合う関係が利害の共通性や感情的な共感のレベルに止まるのか、それとも他者へのケアの思想を伴う「自己内他者」を豊かにする協同に展開するのか。実践・研究の両面においてつながり（協同）の媒介者としての協同総研の真価がますます問われていると感じています。

会員及び関係者の皆様のみますますのご活躍とご健勝を祈念するとともに、変わらぬご支援、ご協力をお願いし、新年の挨拶とさせていただきます。

2024年元旦 一般社団法人協同総合研究所 理事長 大高研道

昨年(362号)の研究所だよりを見返してみると、私の場合は、ウクライナ戦争のことや日本でも戦争の準備が進められていることに触れていて、新年の挨拶としてはいささか暗い話だったなあとと思う。今年も新年早々日本でも能登半島地震や羽田での航空機事故が起こり、「おめでとうございます」とは素直に言いにくい幕開けとなっている。

さらに、昨年10月以降のガザ情勢が世界に暗い影を落としており、戦争のない平和な世界をつくるという、あたりまえの未来への希望さえ失いそうな気持ちになる。イスラエル軍の攻撃が長期化するなかで、日本での報道も少なくなっているのが気がかりだが、日々ガザに暮らすパレスチナの人々は住む家を破壊され、食料や燃料、教育や医療を奪われ、虐殺が続いている。そして、世界は傍観し、攻撃を止めることができない。「私たちはただ見殺しにしているだけ」と言ったら言い過ぎだろうか。このような不道徳を許しておいて、未来への明るい希望を語る権利がはたしてあるのかとも思う。

やはり、新年早々とても暗い話となってしまったが、そのような世界に生きていることを忘れずに今年も一年働いていくので、どうぞよろしくをお願いします。

利根川 徳(専務理事)

昨年、家族での引っ越しを経験した。生活の変化に子どもたちが慣れず、毎日大変だった。ある日、息子の小学校の先生から電話があり、何気なく「困ったことはありますか？」と聞いてみた。すると先生から、「研修が終わった教育実習の先生に手紙を書くという授業の中で、いわきくんが泣いて嫌がり大変だった」というエピソードを聞かされた。私は驚いて、息子になぜ嫌だったのか聞いてみた。すると「仲良くない人に手紙を書きたくない」という答えが返ってきた。はじめはよく理解できなかったが、確かにふつうであれば仲良くない人に手紙は書かない。しかし、一人ひとりがどう思っていようが学校の授業であれば書かなければいけない。そんな思い込みが私の中にあることに気がついた。これは、働く場でも同じかもしれない。言われたからやるのではなく、なぜそれをするのか、前例だからとかそういう決まりだからではなく、少し立ち止まって考えてみるのが大事なかもしれない。

岩城 由紀子(事務局次長)

宇宙船地球号(Spaceship Earth)とは、地球上の資源の有限性や、資源の適切な使用について語るために、地球を閉じた宇宙船にたとえて使う言葉で、建築家のバックミンスター・フラーが1960年代に提唱した。この概念において、地球は宇宙船、乗組員は人類を含む生物すべてであり、地球環境があるからこそ、生命が保たれており、地球と生物は運命共同体だと捉えられている。

ただでさえ、自然環境は厳しい。地球という惑星のダイナミックな活動を前に、人類は手も足も出ない。記憶に新しい能登半島地震、東日本大震災の影響は大きく、首都直下型

地震は今後30年以内に70%の発生確率が公に言われている。それだけでなく、大気中の温室効果ガスの増加に伴う極端な気象現象により、自然災害は増加傾向にある。27億年前にシアノバクテリアが誕生してから、長い年月をかけて地中に固定されていた炭素が、産業革命以降の化石燃料の大量消費により、この200年ほどの間に際限なく大気中に排出され、大気平均気温が上がっていることが影響している。

この、私たちの唯一の宇宙船において、人類が生きていくために手を取り合わないとならない理由は沢山ある。あらゆる対抗軸を前に、共に生きるための方法を考え、実践し続けていきたい。

荒井 絵理菜(事務局次長)

協同労働 その本義

ギールケの『ドイツ協同団体法論』Das deutsche Genossenschaftsrecht全四巻を読み返しながら、協同組合及び労働法の父と評される彼の政治的スタンスが気掛りで、『ドイツの和平構想』Unsere Friedensplan(1917)を紐解いた。構想は、帝国ドイツにとっての和平であり、ヨーロッパ諸国民にとっての和平と所縁のないものであった。

付言すれば、フランスへの征途(普仏戦争)から復員した彼がブレスラウ大学で教鞭をとっていた日々、護郷軍の将校(歩兵大尉)として戦陣にあった日々を学生に楽しそうに語っていたと学生が証言 C・Tiwchner, Otto F. von Gierke und die Bedeutung der sozialen Verbände für die Erforschung des Mittelalters, S.5. しているが、彼の政治的スタンスはドイツ敗戦後においてなお帝政の熱烈な支持者としてのそれであった。

彼の思想的真髄には、『法哲学講義』(長谷川 宏訳、592頁他)で開陳される、公民的存在の最高の具現形態としての軍人というヘーゲルの観念があったことはぬぐい得ない。別言すれば、軍人精神こそ人間的自由の最高存在である、ということである。

協同という観念の根底に、かかる意義での軍人精神の観念が言葉と様相を異にしつつも伏在してはいないという保証はどこにもない。教育勅語にいう「一旦緩急アレハ義勇公ニ奉シ」という言葉は公・公共・公益が私事に優越し、私事を捨てて顧みない振る舞いこそ自由の最高の実現であるとの観念に通底するからである。むろん、当該観念に現代的で市民的装いがこらされても、事態に変わりはない。

末期のすい臓がんの判定を受け闘病14ヶ月に及ぶが、人生の締めくくりにあたって、協同労働観念にまつわって喧伝される、宿病ともいべき公共・論に対する闘争(第二戦線)を完遂しなければならないと決意を掻き立てている、と報告しておきたい。

我々が把持すべき最高の観念は、人たるに値する生存と調和する生活・労働というものだからである。

島村 博(常勤顧問・主任研究員)

2024年の始まりは、またまた入院の話。7時間の大手術だった胃の全摘が済んで、昨年1年間は「抗がん剤」の年でした。それもさしたる副作用もなく無事済み、医師との約束通り今年1月4日に入院し鼠蹊ヘルニアの手術(2時間)を行い、無事退院しました。今は結構、酒を飲み食事も旺盛に過ごしています。

ところで、昨年から考えるところがあって、『あぶない自分史・私史』なるものを書き始めました。「はじめに」のさわりは：

もはや後期高齢者。(確かに)一見順風満帆に見えた経歴の裏に、そう、「あぶないなあ」と感じた時も、周りに助けてくれる人がいました。それも必ずと言っていい程。もしかすると、私の知らないところにも居たんだろうと思える節もあります。

もう一つ、活動・運動を始めてから幾つかの根源的信念を持ち続けています。それは、共産主義の理念を聞いた時感じたのですが、「徹底したヒューマニズムであり、徹底して科学的である」というものです。考えてみれば、これは人がより良き社会をイメージする、いわば、行動と思考のインフラであると思うようになりました。「共産主義」の考え方はその一つであって、全てではなく、実践的に人を結集させるのは、社会正義、社会性と相互信頼であるのでしょうか。

ということを前提にしつつ、今ここで言わないと、もはや表に出ることもない「史実」。開き直って、独り善がりであることも恐れず書き綴ったので「あぶない自分史・私史」という標題が相応しいと思った次第です。

上書きに飽きたら、又はできなくなったら、「完成」です。

岡安 喜三郎(特任顧問)

研究所活動日誌 (2023.12.16~2024.1.15)

12月

- 16日(土) 日本社会連帯機構総会・記念フォーラム、埼玉大学寄付講義FW(そらまめ)
- 18日(月) 日本協同組合学会・常任理事企画担当者会議、キフクトエコストアパパラギ視察同行、東京南部事業本部所長会議
- 19日(火) Pokke団会議、民主主義ユースフェスティバル打ち合わせ
- 20日(水) アメリカNWCDCヒアリング(前山理事)
- 21日(木) 事務局会議、島村顧問インタビュー(大高理事長)
- 22日(金) 労協連企画運営委員会、センター事業団臨時理事会、株) fog大山貴子さん懇談
- 25日(月) 労金協会来所、センター事業団臨時理事会
- 26日(火) 香川大学石井先生来所
- 27日(水) センター事業団臨時理事会
- 28日(木) 仕事納め

1月

- 4日(木) (木)仕事始め
- 6-7日(土-日) JYCフォーラム第18回若者・ひきこもり協同実践交流会 in 岐阜
- 8日(月) トトロの森労協設立相談
- 9日(火) 労協連合同常勤5役会議、協同組合等研究組織自主交流会
- 12日(金) センター事業団拡大理事会

今後の活動予定 (2024.1.16~2.15)

1月

- 16日(火) 東京南部事業本部所長会議
- 17日(水) 埼玉大学寄付講義
- 18-19日(木-金) センター事業団全国所長会議
- 21日(日) 東京南部事業本部123・よい仕事集会
- 23日(火) Pokke団会議(大高ゼミ研究発表)
- 23-24日(火-水) 連合会総務経理学習会
- 24日(水) 常任理事会
- 25日(木) 本部全組員会議、事務局会議
- 26日(金) 労協新聞企画対談(古村副理事×伊藤亜紗×藤原辰史)
- 27日(土) 日本協同組合学会常任理事会
- 28日(日) 厚労省周知フォーラム(東日本)、東京中央事業本部よい仕事集会
- 29日(月) 労協連理事会・賀詞交換会
- 30-31日(火-水) 秋田センター事業団現場視察(利根川・大高)
- 31日(水) 埼玉大学寄付講義2023年度最終発表、日本総研協同労働研究会

2月

- 1日(木) 生協総研公開研究会
- 3日(土) トトロの森労協設立相談
- 6日(火) 労協連合同常勤5役会議
- 7日(水) 労協連企画運営委員会
- 8日(木) 統合本部協同労働・よい仕事研究交流集会
- 9日(金) センター事業団拡大理事会
- 13日(火) 協同組合等研究組織自主交流会

2023年度理事会日程

第4回3月9日(土)、第5回5月25日(土)、総会6月23日(日)

協同労働

令和4年10月1日
労働者協同組合法
が施行されました。

よい仕事

研究交流全国集会 2024

オンライン開催 お申込みは▶

3月/2日sat [全体会] 12:30 ~ 17:00 ~ 3日sun [分散会] 10:00 ~ 15:00



協同労働という新しい働き方
「労働者協同組合法」が社会に浸透していく
協同労働が手渡され、地域の文化となっていく。
願いを胸に持続可能な地域づくりへ向かう。
そんな時代に「よい仕事」とは何かを問う。

よい仕事とは何か

～あきらめ、おまかせをこえて、だれもが当事者に

2022年10月の労働者協同組合法の施行から1年以上が経過し、全国で約70の労働者協同組合及び連合会が誕生しました。出資・意見反映・労働を基本原理とする労働者協同組合の働き方や目的に共感し、楽しく取り組んでいることが特徴です。日本社会で地域経済の崩壊や過疎過密、格差や貧困、社会的排除・孤立という問題が広がっている中で、市民一人ひとりが“あきらめやお任せ”を超えて、“当事者”として創り出すことができる可能性を指し示しているのではないのでしょうか。長年にわたり協同労働の現場で探求してきた「よい仕事」の実践を研究者の皆さんと一緒に研究・評価し、地域に発信し広げる機会にさせていただきます。

1日目 全体会

- 開会挨拶 12:30 ~
- 記念講演 12:45 ~



親泊 朝光さん (株式会社いきがいクリエーション 取締役)

高校卒業後、やりたい事が見つからず職を転々とする日々を過ごす。それから、様々な人との出会いによって看護師となる。大学病院のNICU勤務を経て訪問看護の世界へ。現在は、医療・介護・福祉の会社を経営し、働きやすさ、働きがいの追求をしている。

- パネルディスカッション 14:00 ~ パネリスト 協同労働の実践事業所
- 閉会挨拶 16:45 ~

2日目 分散会

- 20の分散会 10:00 ~

全国の協同労働の実践をもとに、少人数に分かれて「よい仕事」を深め、研究・交流をします。

主催：日本労働者協同組合連合会

E-mail: rngukism@roukyou.gr.jp

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 1-44-3 池袋 ISP タマビル7階 TEL: 03-6907-8040 FAX: 03-6907-8041

【記念講演者の紹介】

よい仕事、働きやすさの追求を、
みんなで作る！

株式会社いきがいクリエーション

取締役・看護師 親泊朝光さん

理念に掲げる「利用者みなさまと」「地域みなさまと」「スタッフと一緒に」「いきがいを一緒につくる」実践を通して、「やりがい」のもてる“よい仕事”と、ケアワーカーの“働きやすさ”を目指しています。

職場の雰囲気がよくなり、人が人を呼び、募集しなくても仲間が生まれ育っていく職場づくりを実践しています。

安心して話ができる職場関係のなかで、「もっとこうなったらいいなあ」がたくさん生まれ、利用者が増え、地域のつながりも拡がり、仕事も広がっています。

「よい仕事」と「協同労働」の関係を探求するうえで、いきがいクリエーションの取り組みから多くを学びたいと思います。

「働きやすさ追求で、人が辞めない」 いきがいクリエーションに学ぶ

WC 連合会全国共生ケアPJ会議

ワーカーズユニオン連合会事業推進本部は、第2回全国共生ケアPJシエクト会議を12月8日にオンラインで開催、42アカセスがありました。今回は学びを中心に設定し、沖縄の訪問看護や訪問介護を行う株式会社いきがいクリエーションの取締役で看護師の親泊朝光さん、働きやすい職場づくりについて聞きました。(本紙 本田真智子)

共生ケア担当役員の労働ワーカーズユニオン・セクター事業部神奈川事業部藤井勝明部長が朗読会あいさつで「そもそも私たちの仕事は誰のためにあるのかを振り返って、人不足の解消、人が辞めない組織、働きやすさ、経営数値から考えないといけないのではないかをみんな考えていきたい」と問題提起しました。「いきがい」の追求から「働きやすさ」の追求へ、安心して働きやすい職場づくりから

「いきがい」の追求から「働きやすさ」の追求へ、安心して働きやすい職場づくりから



親泊さん

入社した時は、スタッフが

「折れない心をつくるための授業」などを行っていた。入社した時は、スタッフが

「いきがいクリエーションの事業は、訪問看護、訪問介護、児童発達支援、小規模多機能型居宅介護など、地域づくりもミッションにして、なにも私たちの折れない心をつくるための授業」などを行っていた。入社した時は、スタッフが

「いきがいクリエーションの事業は、訪問看護、訪問介護、児童発達支援、小規模多機能型居宅介護など、地域づくりもミッションにして、なにも私たちの折れない心をつくるための授業」などを行っていた。入社した時は、スタッフが

「いきがいクリエーションの事業は、訪問看護、訪問介護、児童発達支援、小規模多機能型居宅介護など、地域づくりもミッションにして、なにも私たちの折れない心をつくるための授業」などを行っていた。入社した時は、スタッフが

え、経営が良くなつて、仲間が入つて、まよになり、地域づくりも進むようになったと聞いた。私たちは「よい仕事ができる」といふことができて、働きがいや働きやすさをテーマに、みんなを話し合ったり実践をつくつたりはありしてこなかった。一人ひとりのケアワーカーが、自分の人生のテーマを定めてくれるというところから、働きやすさを協同労働のテーマにしてみる、今おつた。利用者が増えて、現場が集中でき

現在、スタッフ122人、うち看護師17人、職歴率は8%。スタッフが家族や友人・知人などを紹介してくれている。「働きやすさ」といふ言葉が「何を定義するか」と、そこ向から体系がつくれる。いきがいクリエーションの理念は「いきがい共創」である。

現在、スタッフ122人、うち看護師17人、職歴率は8%。スタッフが家族や友人・知人などを紹介してくれている。「働きやすさ」といふ言葉が「何を定義するか」と、そこ向から体系がつくれる。いきがいクリエーションの理念は「いきがい共創」である。

現在、スタッフ122人、うち看護師17人、職歴率は8%。スタッフが家族や友人・知人などを紹介してくれている。「働きやすさ」といふ言葉が「何を定義するか」と、そこ向から体系がつくれる。いきがいクリエーションの理念は「いきがい共創」である。

現在、スタッフ122人、うち看護師17人、職歴率は8%。スタッフが家族や友人・知人などを紹介してくれている。「働きやすさ」といふ言葉が「何を定義するか」と、そこ向から体系がつくれる。いきがいクリエーションの理念は「いきがい共創」である。

私たちは 社会をどう変えるか

協同実践を 具体化したい!

そのための運動論とは?

2024

2.17 (土)

4.06 (土)

5.11 (土)

10:00

~

12:00

2023年10月に実施したサマーフォーラム
「わたしたちは社会をどう変えるのか?」の続編として、
オンライン講座を3回にわたって開催いたします。

教育

佐藤洋作

さん

労働

古村伸宏

さん

福祉

山本耕平

さん

これまで、それぞれの分野で社会運動を展開してきた
三人から、インタビュー形式で話を聞きます。

■参加費■

◇各回 JYC会員 1,000円 非会員 2,000円

◇3回まとめて申込 JYC会員 2,500円 非会員 5,500円



詳細・お申し込みはこちら▶

主催：一般社団法人若者協同実践全国フォーラム(JYCフォーラム)

mail: info@jycforum.org HP: <https://jycforum.org/>

販売開始!!

ワーカーズコープ

協同ではたらく ガイドブック 《実践編》

2021年12月1日発行

発行・制作

一般社団法人 協同総合研究所

〒170-0013

東京都豊島区東池袋1-44-3 池袋ISP タマビル7F

TEL: 03-6907-8033

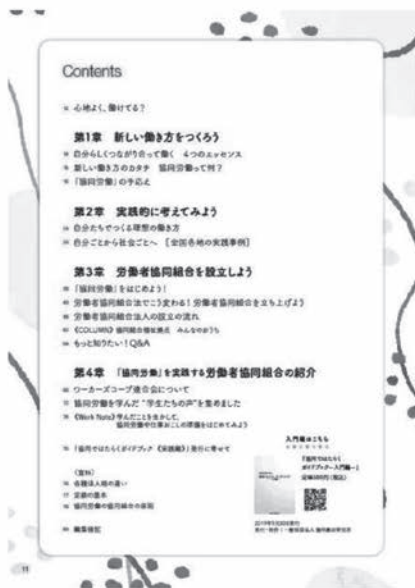
E-mail: kyodoken@roukyou.gr.jp

https://jicr.roukyou.gr.jp/

印刷 アーク印刷株式会社

定価：1100円（税込）

会員・組合員：800円（税込）



ご注文は
こちら



注文QRコード
こちらのコードから
ご注文いただけます。

https://forms.gle/bU1Re3Q5rVwV3XWx5



一般社団法人 協同総合研究所

TEL: 03-6907-8033 E-mail: kyodoken@roukyou.gr.jp https://jicr.roukyou.gr.jp/

※お名前、ご注文などの個人情報の記入欄を設けてありますが、個人情報は書籍の発送・請求以外の目的に使用することはありません。また、ご本人の同意なく第三者に提供することもございません。

その試行錯誤が 協同労働の未来を創る

設立から30周年を迎える協同総研は
ともに実践し、研究する会員を
募集しています

Japan Institute of Co-operative Research

Cooperatives for Human Well-being



会員になると？

- ・活動方針への参加
- ・会員同士の情報交流
- ・毎月の所報の配布
- ・バックナンバーの閲覧
- ・研究会等の会員割引

- 個人会員 12,000yen
- 学生/障害者 6,000yen
- 団体会員 30,000yen
- + 入会預託金 10,000yen

協同総合研究所 会員募集中

協同総合研究所は、日本で唯一の労働者協同組合（協同労働の協同組合）の研究機関です。30年前、「協同」の運動をいっそう強い流れとするために、実践家と研究者の連帯により、労働者協同組合と協同労働を総合的に研究する協同総合研究所は設立されました。協同労働に関心のある方は、専門を問わずどなたでもご入会いただけます。ともに実践し、研究する会員を募集しています。

お申し込みは
こちら



お問合せはお気軽に > T: 03 6907 8033 E mail: kyodoken@roukyou.gr.jp
東京都豊島区東池袋1-44-3池袋ISP タマビル7F

<https://forms.gle/xsVKPBNoDS07wSRA>